

りょういき にんげん しゃかい
＜領域：人間と社会＞

にんげん そんげん じりつ
人間の尊厳と自立

もんだい りょうしゃ せいかつ しつ たか かいごじっせん かん つぎ きじゅつ
問題 1 利用者の生活の質(QOL)を高めるための介護実践に関する次の記述のう

もっと てきせつ えら
ち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- にちじょうせいかつどうさ こうじょう ひっす
1 日常生活動作の向上を必須とする。
- りょうしゃ しゅかんできひょうか かいごふくししょく いこう じゅうし
2 利用者の主観的評価では、介護福祉職の意向を重視する。
- かいごじっせん かぞく おう おこな
3 介護実践は、家族のニーズに応じて行う。
- ふくしやうぐ かつよう りょうしゃ そうだん すす
4 福祉用具の活用は、利用者と相談しながら進める。
- かち きじゅん すべ りょうしゃ おな もち
5 価値の基準は、全ての利用者に同じものを用いる。

問題 2 Aさん(25歳, 男性, 障害支援区分3)は, 網膜色素変性症(retinitis pigmentosa)で, 移動と外出先での排泄時に介助が必要である。同行援護を利用しながら, 自宅で母親と暮らしている。音楽が好きなAさんは合唱サークルに入会して、月1回の練習に参加している。

合唱コンクールが遠方で行われることになった。同行援護を担当する介護福祉職は, Aさんから, 「コンクールに出演したいが, 初めての場所に行くことが心配である」と相談を受けた。

介護福祉職のAさんへの対応として, 最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 合唱コンクールへの参加を諦めるように話す。
- 2 合唱サークルの仲間に移動の支援を依頼するように伝える。
- 3 一緒に交通経路や会場内の状況を確認する。
- 4 合唱コンクールに参加するかどうかは, 母親に判断してもらうように促す。
- 5 日常生活自立支援事業の利用を勧める。